

【H28:先-12】南紀白浜空港民間事業等活用推進調査 (実施主体:和歌山県)

和歌山県 基礎情報(H29.2時点)
・人口:964千人
・可住地面積:1,115.11km²

【事業分野:空港】【対象施設:南紀白浜空港】【事業手法:コンセッション】

【キーワード:小規模空港コンセッション、混合型空港コンセッション、地方管理空港、エアポートセールス、観光振興】

事業発案に至った経緯・目的

①自治体が抱えている課題

南紀白浜空港の旅客数は、平成20年度の15.1万人をピークとして、平成23年の紀伊半島大水害時に9.1万人まで落ち込んだ。その後、空港利用促進の努力もあり旅客数は回復しているが、さらなる空港の活性化を目指し、民間ノウハウの導入による抜本的な空港経営改革を目指す。

②上位計画との関連性

平成29～38年度の和歌山県長期総合計画(案)では、国内外からの多くの交流人口や広域的で活発な物流を創り出すことを目指して、南紀白浜空港の利用者数をピーク時と同水準の15万人と掲げている。

③当該事業の発案経緯

上述の課題解決や上位計画に掲げられた目標達成のため、国際線誘致に向けた施設拡充とともに、コンセッション等の検討を開始した。

調査対象施設(対象地)の概要

①対象施設の状況

開港日:平成8年3月9日

空港の規模:74.1ha

滑走路:長さ2,000m×幅45m

就航路線:羽田⇄和歌山(1日3往復)

運用時間:8時30分～20時

アクセス:JR白浜駅から、バスで約20分、
タクシーで約10分



左:現空港 右:旧空港



旅客ターミナルビル



展望広場

②対象地の状況

白浜温泉に立地しており、世界遺産(高野山、熊野古道)に近接。隣接敷地に旧空港滑走路及びターミナルビル跡地あり。

③施設機能等の整理

現在の空港基本施設等、ターミナルビル、展望広場の維持管理に加え、旧空港滑走路、旧ターミナルビル跡地を含む空港用地の有効活用を実施させ、空港の一体経営を目指す。また新たに整備が予定されている国際線ターミナルビル機能の整備等を検討する。

【H28:先-12】南紀白浜空港民間事業等活用推進調査 (実施主体:和歌山県)

